

# CHACONNE

DEALERS OF FINE VIOLINS



- 地下鉄伏見駅5番出口・大須観音駅1番出口よりそれぞれ徒歩5分
- 地下鉄栄駅・矢場町駅・それぞれ徒歩10~15分



シャコンヌでは、楽器をはじめケースや部品等を直輸入し、当社の優れた技術で修復、調整の上ご紹介しております。また、これらすべての商品に大変お求め安い独自のシャコンヌプライスを設定しております。



東京海上、あいおい損保から認可された保険代理店として万一の事故、盗難に備えた動産総合保険をサービスいたします。弦楽器に関する楽譜や書籍等もご利用下さい。また、関連会社カノンでは演奏会・コンサート等においてご利用いただける最高級名器をリーズナブルな料金にてレンタルいたします。お気軽にお問い合わせ下さい。

**シャコンヌ名古屋店** 日曜月曜定休 営業時間10:00~18:30

名古屋市中区栄2丁目11-19 熊田白川ビル

3F: 店舗・工房 2F: チェロ・書籍・楽器レンタル・サロン

TEL **0120-485-245・052-202-1776**

mail: [chaconne@pop06.odn.ne.jp](mailto:chaconne@pop06.odn.ne.jp) <http://www.chaconne.info>

The 32nd Kurashiki Orchestra Regular Concert

# 倉敷管弦楽団

## 第32回定期演奏会

2006年5月28日(日)

午後 2:30開演(午後 2:00開場)

会場 倉敷市民会館(大ホール)





倉敷管弦楽団

団長 田辺幹夫

クラシック音楽を題材にした「のだめカンタービレ」という少女マンガが大評判と聞いたので、今頃そんなことを知ってコミック本売り場をウロウロするのはちょっと恥ずかしかったですが、買ってきました。

中身は指揮者やピアニストを志す音大生の笑いあり涙ありの長編マンガ（第14巻まで発売中）ですが、日頃は目立たないクラシック音楽と、それを勉強する音大生の姿が真正面から描かれており、またその中で取り上げられている曲を集めたコンサートが大ウケだったといううわさも聞き、クラシック音楽がこれだけ多くの人に親しまれるようになったかと、大変うれしく思いました。

今日のメインの曲は、増井信貴氏の指揮による「シェエラザード」です。千夜一夜物語を題材にした異国情緒豊かな大変楽しい曲です。ウェーバー「魔弾の射手・序曲」、メンデルスゾーン「イタリア」と共に最後までごゆっくりお楽しみ下さい。

“地域文化創造の拠点”を目指して ————— KURASHIKI TIVOLI PARK

「天好き」に出会える  
プログラムパーク

**開園時間 10:00~20:00**

チケット 料金と種類

	大人 18~64歳	中人 12~17歳 中学生 高校生	小人 6~11歳 小学生	幼児 4~5歳	高齢者 65歳以上
入 園 料	2,000円	1,700円	1,000円	—	1,000円
イグニンチケット (半券5枚は2,000円の入園料)	1,000円	800円	500円	—	500円
（スマートチケット）	4,400円	4,100円	3,100円	1,050円	3,000円

※開園時間は朝一曜日などにより変動することございます。詳しくはお問い合わせ下さい。  
●インチ・アラクセンなどの内容につきましては予告なく一部変更する場合があります。  
●チケットは天候により、中止となる場合があります。あしかじめご了承下さい。  
写真・イラストはイメージです。実際の場合は多少異なる場合がございます。

●問い合わせセンター TEL.086-434-1111 ●ホームページアドレス <http://www.tivoli.co.jp>

ウェーバー：歌劇「魔弾の射手」序曲 Op.77

メンデルスゾーン：交響曲第4番イ長調「イタリア」 Op.90

第1楽章 アレグロ・ヴィヴァーチェ

第2楽章 アンダンテ・コン・モート

第3楽章 コン・モート・モデラート

第4楽章 サルタレロ・プレスト

## — 休憩 —

リムスキーコルサコフ：交響組曲「シェエラザード」 Op.35

ヴァイオリンソロ・佐藤真理子

第1楽章 海とシンドバッドの船

第2楽章 カランダールの王子の物語

第3楽章 若き王子と王女

第4楽章 バクダッドの祭・海・船の難破

## ウェーバー：歌劇「魔弾の射手」序曲 Op.77

カール・マリア・フォン・ウェーバー (Carl Maria von Weber, 1786~1826) の代表作の一つである歌劇「魔弾の射手」(Der Freischütz) はドイツ・オペラの地位を固めた記念碑的なオペラです。この後、ドイツ・オペラはワーグナーによってその華を咲かせることになります。

このオペラは、ドイツの民衆的な伝説に基づいた作品で、17世紀のボヘミアの森を舞台に物語は展開します。若い猟師マックスは、愛するアガーテを失いたくないばかりに友人カスパールにそそのかされて、悪魔サミュエルの息のかかった「伝説の魔弾」で射撃大会に臨みます。(Der Freischütz) を直訳すると「自由射手」になるそうですが、「魔弾」とは劇中ストーリーから「悪魔の息のかかった自由に操ることができる伝説の弾丸」という意味で日本語に翻訳され定着したそうです。

本日演奏する序曲は、日本では「秋の夜半」という名前でも知られているホルン四重奏が入った序奏部とコーダを持ったソナタ形式で書かれており、オペラの中で出てくる様々な名旋律により、描写的または叙情的な要素が取り入れられています。2つの主題は文字通り善と惡の対比を表現したもので、展開部でもこの対比を中心にドラマティックに音楽が進みます。最後は信仰厚いアガーテの愛情が、この劇を明るい結末に終わらせていることを示すかのように、明るく華やかに堂々と音楽が進んで行きます。まさに「オペラ全体の縮図」のような序曲らしい序曲です。(井上雄史)

## メンデルスゾーン：交響曲第4番イ長調「イタリア」 Op.90

フェリックス・メンデルスゾーンは、ドイツロマン派の作曲家。モーツアルトに勝るとも劣らない早熟の天才作曲家ですが、モーツアルトやベートーヴェンとは違い、富裕な家庭に育ったため、素直で上品なロマンティズムを感じさせる作品を多く残しています。最も有名なヴァイオリン協奏曲をはじめ、交響曲、歌曲、室内楽曲など、今なお優れた作品として、しばしば取り上げられ、演奏されています。また、作曲家以外としても、音楽家として、種々の業績を残しています。まず、それまで独立していなかった指揮者という職務を独立させ、自らもライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の初代指揮者として活躍し、さらに現在にまで生きる指揮法を確立したことです。また、当時、既に忘れ去っていた大バッハの楽譜を自ら発掘して、その価値を見抜き、傑作「マタイ受難曲」を初演し、世に知らしめました。

交響曲第4番イ長調「イタリア」はメンデルスゾーン24歳の時の作品。メンデルスゾーンが21歳のときに、イタリアを旅行したとき、イタリアの澄み切った気候、古い寺院、遺跡、民衆の舞曲などを題材に作曲されました。暗く寒い風土の北ドイツ生まれのメンデルスゾーンにとって、イタリアは本当に印象的だったと思われます。

### ●第1楽章 Allegro Vivace

はじけるような管楽器の急速な伴奏にのって、ヴァイオリンの生き生きとした主題によって開始されます。イタリアの澄み切った青空、強烈な太陽の光を彷彿とさせます。展開部では、フーガの技法も使われ、重層的で立体的な音楽になっています。楽章全体を通じて沸き立つような躍動感が印象的です。

### ●第2楽章 Andante con moto

呼びかけるような音型につづいて、低弦の特徴的な伴奏の上に、素朴で懐いを帶びた旋律がヴィオラと木管に示されます。イタリアの古い寺院や巡礼者の列を思い起させます。

### ●第3楽章 Con moto moderato

穏やかで、流麗な3拍子の舞曲。中間部は、ホルンの信号のような旋律が印象的です。

### ●第4楽章 Saltarello,Presto

前の3楽章とうってかわって、激しく情熱的な楽章です。サルタレロとは、ローマ付近の民衆に流行した

急速な舞曲です。途中で、違った舞曲「タランテラ」の旋律が現れます。2つの舞曲を織り交ぜながら、息つくまもなく、全曲が終了します。(松江雄二)

## リムスキーコルサコフ：交響組曲「シェエラザード」 Op.35

貴族の家に生まれたリムスキーコルサコフ (1844~1904) は、少年時代から海に憧れ、海軍兵学校に入学し海軍将校になりましたが、作曲法をバラキレフから学びました。1888年に作曲された交響組曲『シェエラザード』は彼の華麗な管弦楽法が最高に發揮された傑作です。

4つの楽章の標題は特定のストーリーを表したものではなく、この曲を聞く人が自由にイメージを描けるためにつけられています。全楽章にわたってシェエラザードの主題が独奏ヴァイオリンによって、形を変えながら一貫して奏されるのが、この曲の大きな特徴です。

### ●第1楽章「海とシンドバッドの船」：

初めに、管と弦のユニゾンによってシャリアール王を描くかのように力強く奏されます。

続いて、独奏ヴァイオリンによる幻想的なシェエラザードの主題がハープの和音に乗って現れます。そして海の主題と波の主題により大洋の波の中を進む船の情景が描かれていきます。

### ●第2楽章「カラングダールの王子の物語」：

スケルツォふうな軽快さと行進曲ふうな力強さを持つ、明るく華やかな楽章です。

#三人のカラングダール (托鉢僧) はいずれも左の目が潰れています。彼らはいずれも元は王子であり、自分の目が潰れた不思議なきさつをそれぞれが語ります。

### ●第3楽章「若き王子と王女」：

まず、ヴァイオリンによって東洋ふうの哀調を帯びた叙情的な旋律がうたわれます。

タンブリンの軽快なリズムに乗って奏される王女の主題は、明るく、喜びに満ちています。

### ●第4楽章「バグダッドの祭・海・船の難破」：

楽章の中心は祭の主題であり、賑やかな踊りが描かれています。続いて波の激動を表すかのような音形が現れ、嵐の襲来と船の難破が描かれます。やがて、嵐は静まり波も穏やかになります。終結部では、独奏ヴァイオリンによりシェエラザードの主題が不思議な長い物語を終えるかのように奏され、穏やかになった王の心のように静かに曲が終わります。

### ★王妃シェエラザードの登場するアラビアンナイト〔千夜と一夜の物語〕とは；

シャリアール王は武勇の誉れが高く、正しい政治を行い、国のあらゆる民衆から愛されていました。ところが王妃が不貞をしているということを知って激怒し、王妃を死罪にするとともに、「どんな女をめどるとも、翌朝必ず切り殺す」という誓いを立てました。大臣の娘、シェエラザードは、多くの詩を誦んじ、学問や芸術を初め、芸ごとに至るまで究め尽くし、しかも快活で優しく、聰明で機知に富み、しつけも大層よい女性でした。シェエラザードは、父の大臣にシャリアール王と結婚させてくれるよう願い出ました。シェエラザードは、王に物語を聞かせて興味をそそり、毎晩、語り続けました。王は物語の面白さと不思議さにかられて妃を殺すのを一日一日と延ばし、千夜一夜たってシェエラザードが物語を語り終えた時には、すっかり元の優しい心に戻り、残酷な誓いを放棄していました。—というものです。

### ★不思議な数1001： “1001” という数字を眺めているうちにこんなことに気付きました。

1001という数字は、7, 11, 13という、三つの連続する「素数」の積になっています。

また、 $1001 = 7 \times 11 \times 13 = (2^2 + 3) \times (2 + 3^2) \times (2^2 + 3^2)$  と分解できます。

千夜一夜は、一夜のオマケではなく、願いの叶う数秘術的な意味でもあるのでしょうか。(陶山靖彦)



増井 信貴

Nobutaka Masui

桐朋学園大学指揮科卒業。岡部守弘、斎藤秀雄、小澤征爾、秋山和慶、尾高忠明、F. フェラーラ、L. バーンスタインに師事。1978年タンブルウッド音楽祭にスカラシップコンダクターとして参加。1982年パリ・オペラ座でオペラ上演に関わりつつ研鑽を積む。また1989年文化庁派遣在外研修員としてバイエルン国立歌劇場に留学し、ウォルフガング・サヴァリッシュ氏の助手として数多くのオペラ上演に参加した。

1989年群馬交響楽団の指揮者に就任。1991年ウィーン木管アンサンブルと共に演じ、その様子はウィーンフィル創立150周年記念ドキュメンタリー番組「ウィーンはいつまでもかわらない」にとりあげられ全世界で放送された。

1997年11月、ロストロポーヴィチ指揮新日本フィル定期演奏会で、ブリテン「戦争レクイエム」の小オーケストラの指揮を務めた。また、1998年冬季長野オリンピック開会式での「第九」演奏においては、合唱とオーケストラをまとめる指揮者のひとりとして演奏に携わった。

得意とするオペラではこれまでにドニゼッティ「イル・カンパネルロ」の日本初演などを指揮。また、NHKテレビへの出演やサイトウ・キネン・オーケストラのヨーロッパ公演に副指揮者として参加するなど、シンフォニー、オペラの両面で精力的な活動を続けている。

現在、京都市立芸術大学教授。

佐藤 真理子

Mariko Sato

国立音楽大学器楽科卒業。中村泉、徳永次男、浦川宣也の各氏に師事。東京交響楽團に入団、第一ヴァイオリン奏者として活躍。'75年岡山へ。ハープの桑原すみれ、チェロの三木稔氏らと共に演奏を始め、ソロ演奏で好評を博す。'85年リサイタルを開催。その後世界的ギタリスト福田進一氏との共演、岩崎淑岩崎洸氏との共演、N響メンバーを含むアンサンブルでソロ、倉敷管弦楽団とのチゴイネルワイゼンを好演するなど、多彩な活動を続けている。親しみやすいクラシックをテーマに佐藤价子女史との絶妙なデュエットは各地で大好評を博し、その美しい音色と叙情的な演奏にはファンも多い。長年倉敷管弦楽団のソロ・コンサートマスターとして地域の音楽レベルの発展に力を尽くし、指導力を高く評価されている。

## 倉敷管弦楽団 Kurashiki Orchestra

「美しい音色とよいアンサンブルで質の高い演奏を」を合言葉に昭和49年に設立され、文化都市倉敷市にふさわしい若さと熱気に満ちた楽団として活躍を続け、一昨年30周年を迎えました。

その間、昭和57年には岡山県教育関係功労者表彰、昭和60年には倉敷市文化連盟賞、そして平成16年には三木記念助成金を受賞しました。

毎年1回開催する定期演奏会では、これまで客演指揮者に早川正昭氏、堤俊作氏、金洪才氏、佐渡裕氏、星出豊氏、田中一嘉氏、増井信貴氏ら、フルートでは世界的巨匠ジャン・ピエール・ランパル氏、ヴァイオリンではイヴリー・ギトリス氏、前橋汀子氏、漆原啓子氏、天満敦子氏、アナ斯塔シア・チェボタリヨーワ氏、久保陽子氏、ピアノの深沢亮子氏、伊藤恵氏、花房晴美氏、ウラジミール・オプチニコフ氏、ルース・スレンチエンスカ氏、チェロの岩崎洸氏、山崎伸子氏、オーボエの茂木大輔氏、トランペットの津堅直弘氏、ホルンの松崎裕氏、ギターの福田進一氏らを招聘。また岡山県内で活躍している演奏家との共演も数多く行っています。倉敷音楽祭へも毎年のように出演し、ミュージカル「11匹のネコ」、ヘンデル「メサイア」、プッチーニ「ラ・ボエーム」、團伊玖磨「夕鶴」、ビゼー「カルメン」、モツアルト「フィガロの結婚」その他を演奏しました。県内のオーケストラを聞く機会が少ない地域へも毎年のように出向いて演奏会を開いて来ました。

演奏曲目はバロックから現代曲までと幅広く、團伊玖磨氏作曲「管弦楽のための高梁川」、小六禮次郎氏作曲「瀬戸内讃歌」などを初演。オペラではモツアルト「魔笛」、「フィガロの結婚」、「コシ・ファン・トゥッテ」、ビゼー「カルメン」、J・シュトラウス「こうもり」、プッチーニ「蝶々夫人」等を演奏。

創立10周年記念演奏会では400名からなるパートーヴェン「第九」、20周年ではイヴリー・ギトリス氏、岩崎洸氏との「コンチェルトのタベ」を開催し、30周年ではマーラー「交響曲第1番・巨人」を演奏しました。

## 倉敷管弦楽団団員募集

定例練習日 毎週月曜日 午後7:00~9:30

練習場所 倉敷市文化交流会館

団員資格 オーケストラ経験者で、練習・演奏会に参加できる人

募集パート 全パート

●お問い合わせは 田辺幹夫／☎ 086-263-3521

菊池 東／☎ 086-522-5145

<http://www1.megaegg.ne.jp/~orchestra/kurakan/index.html>



佐藤真理子ヴァイオリン教室

レッスン場／〒710-0826

倉敷市老松町3-4-13 朝日プラザ304

TEL・FAX／086-425-2618



